

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度【リテラシーレベル】令和8年度申請用

様式1

大学等名	千葉県立保健医療大学
プログラム名	千葉県立保健医療大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム

リテラシーレベルのプログラムを構成する授業科目について

① 教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違しない

② 対象となる学部・学科名称

③ プログラム履修必須の有無

令和6年度以前又は令和7年度より、履修することが必須のプログラムとして実施

④ 修了要件

必修科目2単位を修得すること。

⑤ プログラム構成科目

必要最低科目数・単位数	2	科目
	2	単位

授業科目		単位数	モデルカリキュラム対応状況																					
			1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8	4-9	その他	
(1) 必須科目 (プログラムを修了するために必ず履修しなければならない科目)	統計学	1			○	○	○	○	○	○	○													
	情報リテラシー I	1	○	○								○	○											
※卒業要件上の必修科目とは必ずしもイコールではない																								
(2) 選択必須科目 (プログラムを修了するために一定の条件のもと履修しなければならない科目)																								
(3) 選択科目 (プログラムを構成する科目のうち「必須科目」「選択必須科目」のいずれにも該当しない科目)																								

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・第4次産業革命、データ駆動型社会「情報リテラシー」(第1回) ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「情報リテラシー」(第8～12回、7回、第13～14回)
	1-6	・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、強化学習、転移学習、生成AIなど)「統計学」(第15回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、1次データ、2次データ「情報リテラシー」(第7回、第8～12回、第13～14回)
	1-3	・データ・AI活用領域の広がり(生産、消費、文化活動など)「統計学」(第1回) ・研究開発、販売、マーケティング、サービスなど「統計学」(第2、11、15回) ・仮説検証、知識発見、原因究明、計画策定、判断支援、活動代替、新規生成など「統計学」(第2、11、15回)
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析: 予測、グルーピング、パターン発見、最適化、モデル化とシミュレーション「統計学」(第12～14回) ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化、地図上の可視化、挙動・軌跡の可視化「統計学」(第3回) ・今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「統計学」(第1回)
	1-5	・データサイエンスのサイクル(データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「統計学」(第2、11、15回) ・教育、流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等におけるデータ・AI利活用事例紹介「統計学」(第2、11、15回)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題(ELSI)「情報リテラシー」(第2回、第6回、第15回) ・個人情報保護「情報リテラシー」(第2回、第15回) ・データ倫理(ねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護)「情報リテラシー」(第6回) ・データ活用における負の事例「情報リテラシー」(第15回)
	3-2	・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)「情報リテラシー」(第2回、第15回) ・ユーザ認証、パスワード管理、アクセス制御「情報リテラシー」(第2回) ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「情報リテラシー」(第15回) ・サイバーセキュリティ「情報リテラシー」(第2回、第15回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数)「統計学」(第3回) ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「統計学」(第3回) ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「統計学」(第3回) ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値「統計学」(第3回) ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)「統計学」(第4、12～14回) ・観測データに含まれる誤差の扱い「統計学」(第5、6回) ・母集団と標本抽出(国勢調査、アンケート調査、全数調査、単純無作為抽出、層別抽出、多段抽出)「統計学」(第5、6回) ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列「統計学」(第4、12回) ・統計情報の正しい理解(誇張表現に惑わされない)「統計学」(第11、15回)
		・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、箱ひげ図)「統計学」(第3回) ・データの比較(条件をそろえた比較、処理の前後での比較)「統計学」(第8～10回) ・不適切なグラフ表現(不要な視覚的要素)「統計学」(第11、15回) ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「統計学」(第11、15回)
	2-3	・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)「統計学」(第2回) ・データの集計(和、平均)「統計学」(第3、8～10回) ・表形式のデータ(csv)「統計学」(第2回)

⑦プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

本プログラムを通じて、学生は、情報化社会において必要となる基礎的な情報リテラシーを身に付ける。
 具体的には、ICTを活用して情報を収集・整理・表現するための基本的な技能を修得するとともに、情報モラルや情報セキュリティ、著作権等に関する理解を深め、データや情報を安全かつ適切に取り扱うことができる能力を身に付ける。
 また、修得した知識・技能を基に、学修活動や将来の職業生活において、情報やデータを根拠として考え、行動する姿勢を養う。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度 令和7 年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

[illegible]

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	81	人
(非常勤)	80	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

2	人
---	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	細山田 康恵
(役職名)	学部長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	教務委員会
------	-------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	千葉県立保健医療大学教務委員会規程
------	-------------------

⑥ 体制の目的

第4条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 教育課程の編成に関する事項
- (2) 学年暦及び時間割の編成に関する事項
- (3) 授業計画に関する事項
- (4) 非常勤講師に関する事項
- (5) 試験及び単位の認定に関する事項
- (6) 授業評価に関する事項
- (7) 学籍の異動(入学、進級、休学、復学、転学、留学、退学、除籍及び卒業等)に関する事項
- (8) 科目等履修生、特別聴講学生、聴講生、研修生、研究生及び外国人留学生に関する事項
- (9) その他学長が付託した事項に関する事項
- (10) その他教務に関する事項

⑦ 具体的な構成員

教務委員長 山本達也 教授 (リハビリテーション学科作業療法学専攻)
 教務副委員長 木内千晶 教授 (看護学科)
 金丸友 准教授 (看護学科)
 北川良子 准教授 (看護学科)
 加藤隆子 講師 (看護学科)
 平岡真実 教授 (栄養学科)
 広川由子 教授 (栄養学科)
 酒巻裕之 教授 (歯科衛生学科)
 鈴木瞳 教授 (歯科衛生学科)
 大谷拓哉 教授 (リハビリテーション学科理学療法学専攻)
 室井大佑 准教授 (リハビリテーション学科理学療法学専攻)
 須藤崇行 講師 (リハビリテーション学科作業療法学専攻)

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	24%
令和8年度予定	50%
令和9年度予定	75%
令和10年度予定	100%
令和11年度予定	

具体的な計画

・本プログラムは、令和7年度の全学共通科目に、リテラシーレベルを網羅する科目として統計学及び情報リテラシーⅠを開講した。全学科専攻の必修科目に位置づけているため、令和10年度には全学生が履修することになる。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

全学科専攻共通の必修科目として設置しているため、全学生が履修する必要がある。また本プログラムで開講している科目は一人一台PCを用いて受講しているが、教室のPCに限りがあるため学科の中で2クラスに分けて実施するなど、全員が受講できる体制を整えている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

・全学科専攻の必修科目として配置している。
・新入生向けのガイダンスで必修科目となっていることやクラス分けについて周知している

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

・担任の先生が随時、相談や質問を受け付けることで、履修・修得に向けたサポートを行っている。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

Teamsにて科目のチームを作成し、教員からの学習指導及び学生から質問を受けることを可能にしている。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

教務委員会

(責任者名) 山本 達也

(役職名) 教務委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
	プログラムの履修・修得状況	本プログラムは令和7年度に開始し、構成する科目は1年次の必修科目として位置づけられており、1年次全員が履修している。 「情報リテラシーⅠ」及び「統計学」を1年次181名全員が修得した。
	学修成果	「情報リテラシーⅠ」について全ての学生が到達目標を達成し、単位を修得した。 成績分布としてはS:10名、A:71名、B:72名、C:28名であった。 「統計学」についても全ての学生が到達目標を達成し、単位を修得した。 成績分布としてはS:61名、A:69名、B:40名、C:11名であった。 授業評価アンケートの受講生の満足度や授業に対する意見等を集計・調査し、今後の授業運営に役立てていく。
	学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	本プログラム受講者全員を対象に授業評価アンケートを実施しており、「内容がよく理解できるように準備されていた」や「学生の理解度に対して配慮がされていた」という項目から学生の理解度を分析し、授業改善を行っていく。
	学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	授業評価アンケートで後輩等他の学生への推奨度という項目は実施していない。 「全体としてこの授業を受けられてよかった」という項目を実施しており、全学生向けにアンケート結果を公表することで、推奨度に近いものを他学生へ発信している。
	全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況	各学科専攻の必修科目としているため、令和7年度は履修率100%となっている。 今後も履修率100%を維持するため、ガイダンスにて履修について周知していく。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価		本プログラムは令和7年度に開始し、1年次が対象の科目で構成されているため、修了者のうち卒業生はいない。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見		今後実施予定のAIに関するセミナーで講演いただく講師や本学卒業生の意見を聴く機会で卒業生へヒアリング等を実施することにより、産業界が求めるニーズや必要な知識を情報収集し、教育プログラムの改善につなげる。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること		「統計学」では量的データの収集、分析、結果の記述および解釈に至る基礎的知識を学び、「情報リテラシーⅠ」では大学生および職業人としての基礎的素養となる情報の整理と活用、およびコンピュータを利用したICT獲得について学んでいる。さらにパソコンを用いて各種ツールや統計ソフトによる演習形式の授業も取り入れることで「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を促すような工夫をしている。また、実社会に基づくデータを用いた統計分析をおこなうことで学生の実践的な学びを促している。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載		学期末に授業評価アンケートを実施している。「内容がよく理解できるように準備されていた」、「教員の説明は分かりやすかった」、「学生の理解度に対して配慮がされていた」という評価項目の集計結果及び自由記述欄のコメントを分析し、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業となるよう改善を行っていく。また1年ごとに授業計画を見直し、最新の動向を踏まえた分析手法やAIに関するトピックを紹介する。

授業 科目名	統計学① (Statistics)	履修年次：1年	単位数：	担当教員名： 豊川智之 (非常勤講師室)
		必修：看護、栄養、 歯科	1単位 30時間	
			コード：LAC101	
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識，Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
・統計学の基本的な約束事を知り、記述統計と推測統計を区別できる。(知識)				
・分析仮説とデータに基づき、適切な統計手法を選択することができる。(技能)				
・基本的な統計処理を行うことと、その結果を読み取ることができる。(技能)				
・統計と誤差に対する科学的視点を基にクリティークを行うようになる。(態度・習慣)				
〔授業の概要〕				
中学校数学の「データの活用」及び高校数学Ⅰの「データの分析」で学んだ記述統計と、推測統計や統計的検定について学ぶ。提示されたデータを分析する方法を学ぶ。計算は、データが少量ならば手計算、大量ならばパソコンのソフトウェアを用いて行う。計算結果を読み取る方法を学ぶ。				
キーワード：データ解析、記述統計、推測統計、統計的検定				
〔授業計画〕 第14・15回は全学科専攻合同で2/4の1・2限に大講義室で行います。				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	10/6	イントロダクション	統計学とは、授業の進め方を説明する。	
第2回	10/20	保健統計	人口統計学、人口動態統計、人口動態統計	
第3回	10/27	データの種類と記述統計1	代表値、数量データ、カテゴリーデータ、分布、箱ひげ図	
第4回	11/10	記述統計2	平均値、中央値、最頻値、度数分布、分散、標準偏差	
第5回	11/17	母集団と標本	抽出法、推定、点推定、区間推定、誤差、偶然誤差	
第6回	12/1	平均値の差の検定1	t検定、等分散性の検定、対応のある検定、対応の無い検定	
第7回	12/8	平均値の差の検定2	分散分析 (ANOVA)、多重比較、ノンパラメトリック、	
第8回	12/15	相関と回帰	散布図、相関係数、回帰係数、予測式	
第9回	12/22	一般線形回帰	系統誤差、交絡因子、バイアス	
第10回	1/5	カイ自乗分析	クロス集計表、比率の差の検定	
第11回	1/19	ロジスティック回帰分析1	オッズ比、	
第12回	1/26	ロジスティック回帰分析2	年齢調整、ROC 曲線	
第13回	2/2	生存時間分析	カプランマイヤー曲線、ログランク検定、コックス比例ハザード	
第14回	2/4 1限	まとめ1	研究仮説と統計分析、疫学研究、ダミー変数	
第15回	2/4 2限	まとめ2	研究仮説と統計分析、モデル適合度	
履修条件		情報リテラシーⅠを受講済みであることが望ましい。		
予習・復習		予習：高校数学Ⅰ「データの分析」を読みこむ。復習：ノートをまとめる。		
テキスト		指定しない。配布資料を用意する。		
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		講義内課題 20%、最終レポート 80%		

授業 科目名	統計学② (Statistics)	履修年次：1年 必修:理学、作業	単位数： 1単位 30時間 コード:LAC101	担当教員名： 豊川智之 (非常勤講師室)
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識，Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
・統計学の基本的な約束事を知り、記述統計と推測統計を区別できる。(知識)				
・分析仮説とデータに基づき、適切な統計手法を選択することができる。(技能)				
・基本的な統計処理を行うことと、その結果を読み取ることができる。(技能)				
・統計と誤差に対する科学的視点を基にクリティークを行うようになる。(態度・習慣)				
〔授業の概要〕				
中学校数学の「データの活用」及び高校数学Ⅰの「データの分析」で学んだ記述統計と、推測統計や統計的検定について学ぶ。提示されたデータを分析する方法を学ぶ。計算は、データが少量ならば手計算、大量ならばパソコンのソフトウェアを用いて行う。計算結果を読み取る方法を学ぶ。				
キーワード:データ解析、記述統計、推測統計、統計的検定				
〔授業計画〕 第14・15回は全学科専攻合同で2/4の1・2限に大講義室で行います。				
回 数	日付	テ ェ マ	内 容	
第1回	10/6	イントロダクション	統計学とは、授業の進め方を説明する。	
第2回	10/20	保健統計	人口統計学、人口静態統計、人口動態統計	
第3回	10/27	データの種類と記述統計1	代表値、数量データ、カテゴリーデータ、分布、箱ひげ図	
第4回	11/10	記述統計2	平均値、中央値、最頻値、度数分布、分散、標準偏差	
第5回	11/17	母集団と標本	抽出法、推定、点推定、区間推定、誤差、偶然誤差	
第6回	12/1	平均値の差の検定1	t検定、等分散性の検定、対応のある検定、対応の無い検定	
第7回	12/8	平均値の差の検定2	分散分析 (ANOVA)、多重比較、ノンパラメトリック、	
第8回	12/15	相関と回帰	散布図、相関係数、回帰係数、予測式	
第9回	12/22	一般線形回帰	系統誤差、交絡因子、バイアス	
第10回	1/5	カイ自乗分析	クロス集計表、比率の差の検定	
第11回	1/19	ロジスティック回帰分析1	オッズ比、	
第12回	1/26	ロジスティック回帰分析2	年齢調整、ROC 曲線	
第13回	2/2	生存時間分析	カプランマイヤー曲線、ログランク検定、コックス比例ハザード	
第14回	2/4 1限	まとめ1	研究仮説と統計分析、疫学研究、ダミー変数	
第15回	2/4 2限	まとめ2	研究仮説と統計分析、モデル適合度	
履修条件		情報リテラシーⅠを受講済みであることが望ましい。		
予習・復習		予習：高校数学Ⅰ「データの分析」を読みこむ。復習：ノートをまとめる。		
テキスト		指定しない。配布資料を用意する。		
参考書・参考資料等		指定しない。授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		講義内課題 20%、最終レポート 80%		

授業 科目名	授業科目名：月曜日開講 情報リテラシーI Information literacy I	履修年次：	単位数：	担当教員名： 佐久間貴士 (研究室：A棟402)
		必修：看護学科	1単位 30時間	
		1年	コード：LAC102	
[DP]Ⅲ 実践に必要な知識, I 倫理観とプロフェッショナリズム, VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
・コンピュータを利用した IT やセキュリティ、著作権などの基礎知識について学ぶ。(知識)				
・職業人として必要な情報リテラシーを習得し、レポートの基礎的作成技術を身につける。(技能)				
・IT を利用し、情報収集とコミュニケーションのための ICT を活用する視点を獲得し、 目的に応じた情報手段を選択して記録することができる。(態度・習慣)				
〔授業の概要〕				
この演習科目では、大学生および職業人としての基礎的素養となる情報の整理と活用、およびコンピュータを利用した ICT を獲得することを目標とする。情報リテラシー獲得のためにどのようにコンピュータを利用すべきかを演習し、さらに「目的に合わせて使う」ためのツールという道具としての使い分けが可能になることを目指す。				
キーワード：IT、ICT、情報リテラシー、コンピュータリテラシー				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	4/14	ガイダンス等	ガイダンスと注意・メール設定・Teams・教務システム	
第2回	4/21	情報モラルとセキュリティ	情報モラルとセキュリティ（ウイルス・マルウェア、など）	
第3回	4/28	電子メールの利用	情報検索、Eメールの利用・基本的な機能	
第4回	5/12	文書作成ソフト1	基本的な操作、ファイルの操作・管理方法	
第5回	5/19	文書作成ソフト2	ビジネス文書の作成	
第6回	5/26	文書作成ソフト3	キャプチャ機能の利用方法とインターネット上の著作権	
第7回	6/2	文書作成ソフト4	レポートあるいは論文執筆の方法	
第8回	6/9	表計算ソフト1	基本的な操作、ファイル概念・管理方法	
第9回	6/16	表計算ソフト2	データ集計の基本操作・関数の利用	
第10回	6/23	表計算ソフト3	関数の利用・複数の条件判断	
第11回	6/30	表計算ソフト4	グラフの作成方法、利用方法、特徴	
第12回	7/7	表計算ソフト5	データベースとしての活用方法、Microsoft Word への取り込み	
第13回	7/14	プレゼンテーションソフト1	プレゼンテーションソフトウェアの基本操作	
第14回	7/23	プレゼンテーションソフト2	プレゼンテーションソフトウェアの構成・動き・オブジェクト	
第15回	7/28	まとめ	情報セキュリティの今日的課題点、まとめ	
履修条件		特になし。		
予習・復習		タイピングを義務付けるので予習しておくこと。復習はメモ・ノートを活用すること。		
テキスト		指定しない、必要なレジュメを配布する。		
参考書・参考資料等		授業を進める中で随時紹介する。		
学生に対する評価		授業内で作成する作成物や課題の内容（約60%）、学習態度（約20%）、タイピング能力（約20%）などにより総合的に評価する。		

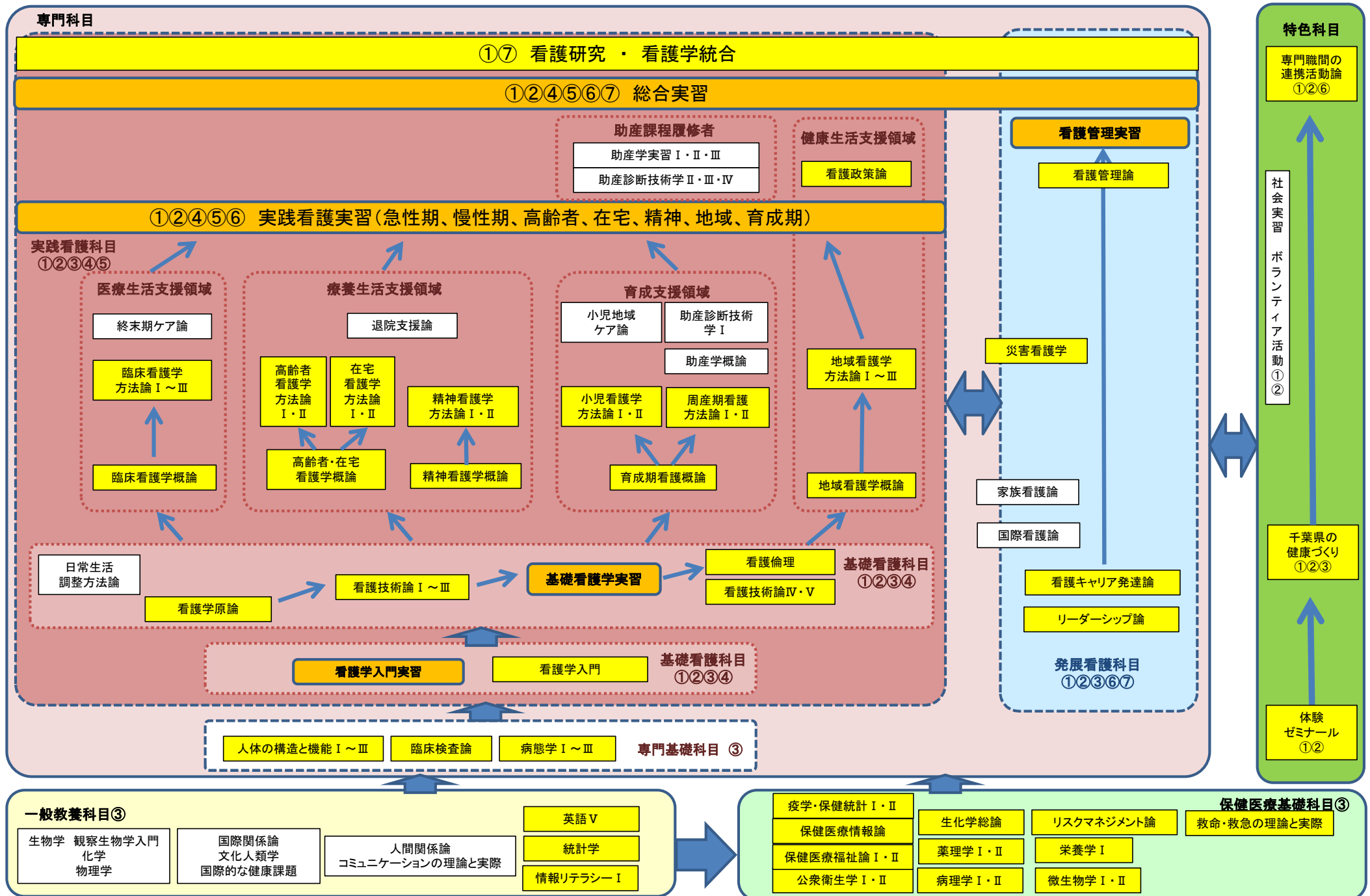
授業 科目名	授業科目名：金曜日開講 情報リテラシーI Information literacy I	履修年次： 必修：栄養・歯科 衛生学科1年	単位数： 1 単位 30 時間 コード：LAC102	担当教員名： 佐久間貴士 (研究室：A 棟 402)
[DP]Ⅲ 実践に必要な知識, I 倫理観とプロフェッショナリズム, VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 ・コンピュータを利用した IT やセキュリティ、著作権などの基礎知識について学ぶ。(知識) ・職業人として必要な情報リテラシーを習得し、レポートの基礎的作成技術を身につける。(技能) ・IT を利用し、情報収集とコミュニケーションのための ICT を活用する視点を獲得し、 目的に応じた情報手段を選択して記録することができる。(態度・習慣)				
〔授業の概要〕 この演習科目では、大学生および職業人としての基礎的素養となる情報の整理と活用、およびコンピュータを利用した ICT を獲得することを目標とする。情報リテラシー獲得のためにどのようにコンピュータを利用すべきかを演習し、さらに「目的に合わせて使う」ためのツールという道具としての使い分けが可能になることを目指す。				
キーワード：IT、ICT、情報リテラシー、コンピュータリテラシー				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	4/11	ガイダンス等	ガイダンスと注意・メール設定・Teams・教務システム	
第2回	4/18	情報モラルとセキュリティ	情報モラルとセキュリティ（ウイルス・マルウェア、など）	
第3回	4/25	電子メールの利用	情報検索、Eメールの利用・基本的な機能	
第4回	5/2	文書作成ソフト1	基本的な操作、ファイルの操作・管理方法	
第5回	5/9	文書作成ソフト2	ビジネス文書の作成	
第6回	5/16	文書作成ソフト3	キャプチャ機能の利用方法とインターネット上の著作権	
第7回	5/23	文書作成ソフト4	レポートあるいは論文執筆の方法	
第8回	5/30	表計算ソフト1	基本的な操作、ファイル概念・管理方法	
第9回	6/6	表計算ソフト2	データ集計の基本操作・関数の利用	
第10回	6/13	表計算ソフト3	関数の利用・複数の条件判断	
第11回	6/20	表計算ソフト4	グラフの作成方法、利用方法、特徴	
第12回	6/27	表計算ソフト5	データベースとしての活用方法、Microsoft Word への取り込み	
第13回	7/4	プレゼンテーションソフト1	プレゼンテーションソフトウェアの基本操作	
第14回	7/11	プレゼンテーションソフト2	プレゼンテーションソフトウェアの構成・動き・オブジェクト	
第15回	7/18	まとめ	情報セキュリティの今日的問題点、まとめ	
履修条件		特になし。		
予習・復習		タイピングを義務付けるので予習しておくこと。復習はメモ・ノートを活用すること。		
テキスト		指定しない、必要なレジュメを配布する。		
参考書・参考資料等		授業を進める中で随時紹介する。		
学生に対する評価		授業内で作成する作成物や課題の内容（約60%）、学習態度（約20%）、タイピング能力（約20%）などにより総合的に評価する。		

授業科目名	授業科目名：火曜日開講 情報リテラシーI Information literacy I	履修年次： 必修：理学・作業療法学科1年	単位数： 1 単位 30 時間 コード：LAC102	担当教員名： 佐久間貴士 (研究室：A 棟 402)
[DP]Ⅲ 実践に必要な知識, I 倫理観とプロフェッショナリズム, VII 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 ・コンピュータを利用した IT やセキュリティ、著作権などの基礎知識について学ぶ。(知識) ・職業人として必要な情報リテラシーを習得し、レポートの基礎的作成技術を身につける。(技能) ・IT を利用し、情報収集とコミュニケーションのための ICT を活用する視点を獲得し、目的に応じた情報手段を選択して記録することができる。(態度・習慣)				
〔授業の概要〕 この演習科目では、大学生および職業人としての基礎的素養となる情報の整理と活用、およびコンピュータを利用した ICT を獲得することを目標とする。情報リテラシー獲得のためにどのようにコンピュータを利用すべきかを演習し、さらに「目的に合わせて使う」ためのツールという道具としての使い分けが可能になることを目指す。				
キーワード：IT、ICT、情報リテラシー、コンピュータリテラシー				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	4/15	ガイダンス等	ガイダンスと注意・メール設定・Teams・教務システム	
第2回	4/22	情報モラルとセキュリティ	情報モラルとセキュリティ（ウイルス・マルウェア、など）	
第3回	5/13	電子メールの利用	情報検索、Eメールの利用・基本的な機能	
第4回	5/20	文書作成ソフト1	基本的な操作、ファイルの操作・管理方法	
第5回	5/27	文書作成ソフト2	ビジネス文書の作成	
第6回	6/3	文書作成ソフト3	キャプチャ機能の利用方法とインターネット上の著作権	
第7回	6/10	文書作成ソフト4	レポートあるいは論文執筆の方法	
第8回	6/17	表計算ソフト1	基本的な操作、ファイル概念・管理方法	
第9回	6/24	表計算ソフト2	データ集計の基本操作・関数の利用	
第10回	7/1	表計算ソフト3	関数の利用・複数の条件判断	
第11回	7/8	表計算ソフト4	グラフの作成方法、利用方法、特徴	
第12回	7/15	表計算ソフト5	データベースとしての活用方法、Microsoft Word への取り込み	
第13回	7/22	プレゼンテーションソフト1	プレゼンテーションソフトウェアの基本操作	
第14回	7/24	プレゼンテーションソフト2	プレゼンテーションソフトウェアの構成・動き・オブジェクト	
第15回	7/29	まとめ	情報セキュリティの今日的問題点、まとめ	
履修条件		特になし。		
予習・復習		タイピングを義務付けるので予習しておくこと。復習はメモ・ノートを活用すること。		
テキスト		指定しない、必要なレジュメを配布する。		
参考書・参考資料等		授業を進める中で随時紹介する。		
学生に対する評価		授業内で作成する作成物や課題の内容（約60%）、学習態度（約20%）、タイピング能力（約20%）などにより総合的に評価する。		

看護学科 カリキュラム・マップ

看護学科ディプロマポリシー

- ①看護学科学生は、卒業時に倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務を果たすことができる。
- ②看護学科学生は、卒業時に対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築して、適切にコミュニケーションをとることができる。
- ③看護学科学生は、卒業時に高い教養を身に付け、ヘルスケア実践や健康づくりに必要な知識を有することができる。
- ④看護学科学生は、卒業時に個人・家族・地域に対し、より健康的でその人らしい生活を送るために根拠に基づいた適切な有効なヘルスケアを提供できる。
- ⑤看護学科学生は、卒業時に人々の健康のために、対象者自らが主体的に健康づくりに取り組むことを支援するとともに、健康を志向する環境（人・物・制度）の改善に努めることができる。
- ⑥看護学科学生は、卒業時に対象者を中心とした安全で質の高いヘルスケアを実践するために、自身の役割を認識し、多職種・対象者との相互理解を深めながら行動することができる。
- ⑦看護学科学生は、卒業時に論理的思考を身に付け、自己および専門職として生涯にわたり成長できる資質および県内看護職のリーダーになり得る資質を示すことができる。



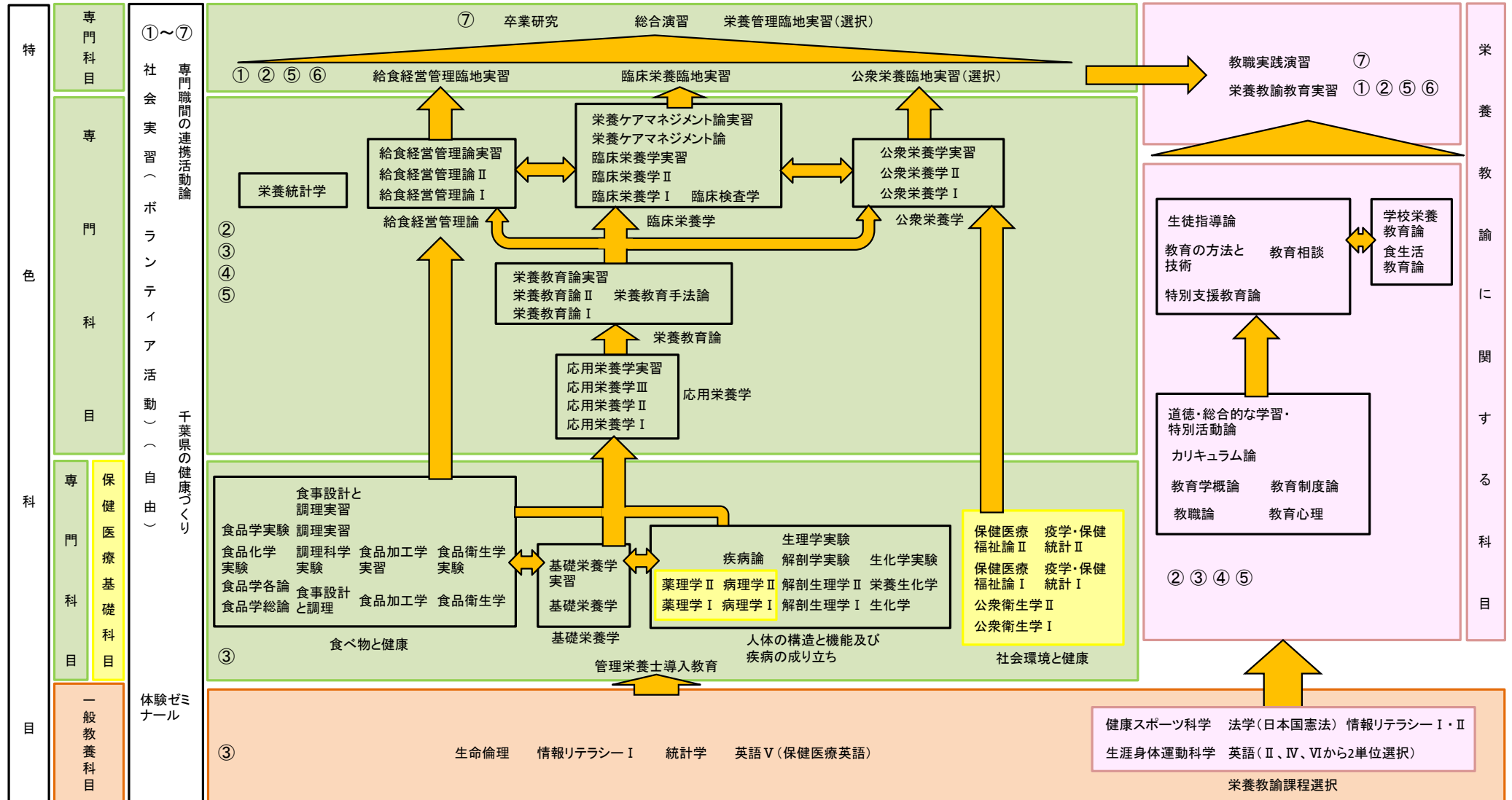
栄養学科カリキュラムマップ

ディプロマポリシー

- ①栄養学科の学生は、卒業時に倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務を果たすことができる。
- ②栄養学科の学生は、卒業時に対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築して、生き生きとしたコミュニケーションをとることができる。
- ③栄養学科の学生は、卒業時に専門領域の実践に必要な知識を有し、それを栄養管理の実践や健康づくりの支援に活用することができる。
- ④栄養学科の学生は、卒業時に個人・家族・地域に対し健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、根拠に基づいた適切で有効な栄養管理によって健康づくりの支援を提供できる。
- ⑤栄養学科の学生は、卒業時に人々の健康のために、対象者自らが主体的に健康づくりおよび栄養管理に取り組むことを支援するとともに、健康を志向する地域環境（人・物・制度）の改善に努めることができる。
- ⑥栄養学科の学生は、卒業時に対象者を中心とした安全で質の高い保健・医療・福祉を実践するために、自身の役割を認識し、多職種との相互理解を深めながら行動することができる。
- ⑦栄養学科の学生は、卒業時に論理的思考による探究心を身につけ、自己研鑽に励み、自己および専門職として生涯にわたり成長できる資質を示すことができる。

管理栄養士・栄養士課程

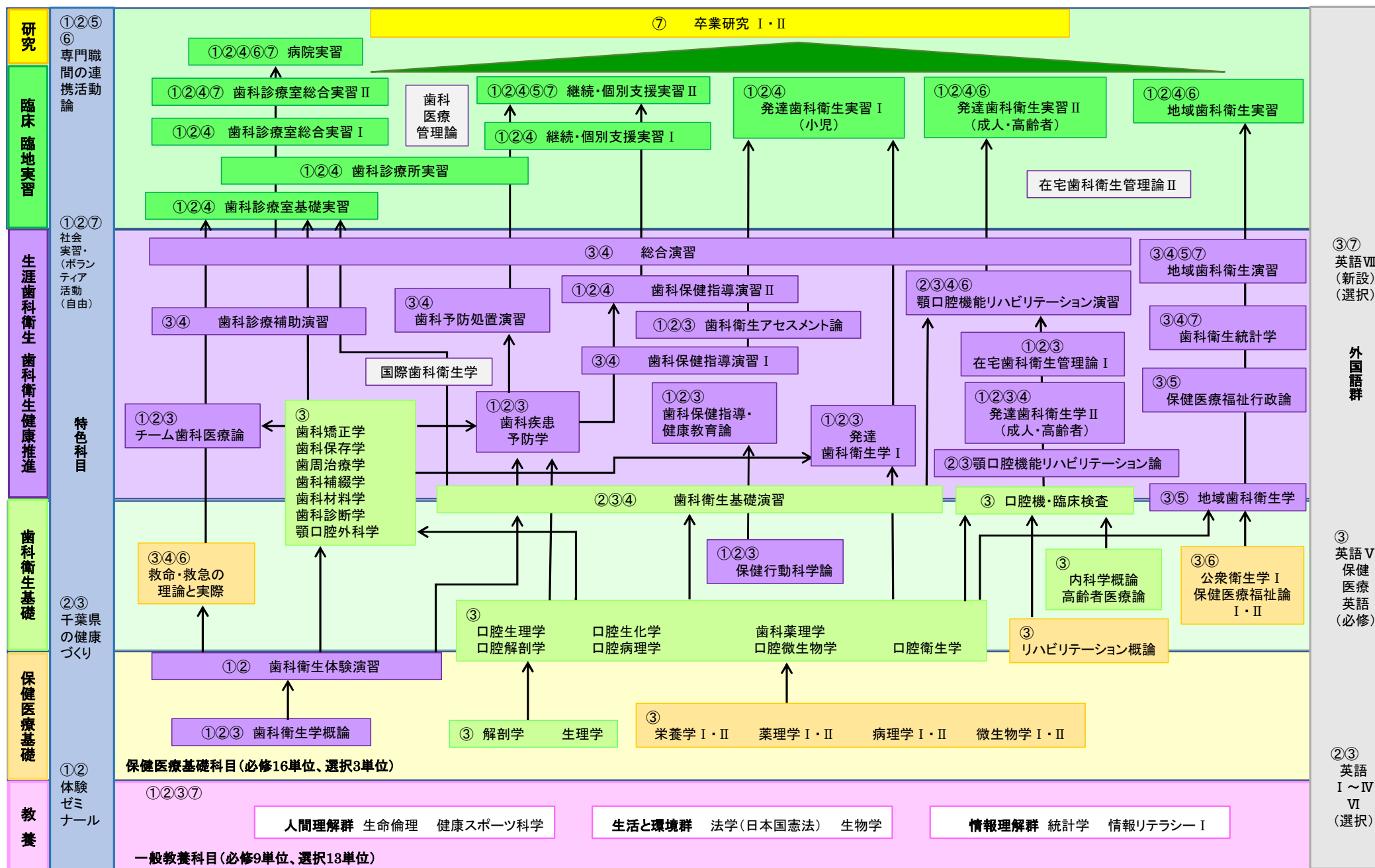
栄養教諭課程



歯科衛生学科カリキュラムマップ

歯科衛生学科ディプロマポリシー

- ①歯科衛生学科学生は、卒業時に倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務を果たすことができる。
- ②歯科衛生学科学生は、卒業時に対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築し、生き生きとしたコミュニケーションをとることができる。
- ③歯科衛生学科学生は、卒業時に、歯科衛生学領域の実践に必要な知識を有し、それを健康づくりの支援に活用することができる。
- ④歯科衛生学科学生は、卒業時に個人・家族・地域に対し健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、歯科衛生学の根拠に基づいた適切で有効な健康づくりの支援を提供できる。
- ⑤歯科衛生学科学生は、卒業時に、人々の健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、健康を志向する環境（人・物・制度）の整備・改善に努めることができる。
- ⑥歯科衛生学科学生は、卒業時に、対象者を中心とした安全で質の高い歯科領域の保健・医療・福祉を实践するために、歯科衛生士の役割を認識し、多職種と相互理解を深めながら行動することができる。
- ⑦歯科衛生学科学生は、卒業時に、論理的思考を身につけ、自己研鑽に励み、自己および歯科衛生士として生涯にわたり成長できる資質を示すことができる。



理学療法学専攻 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー

- ①理学療法学専攻の学生は、卒業時に倫理的な原則を遵守し、理学療法士としての責務を果たすことができる。
- ②理学療法学専攻の学生は、卒業時に対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築して、適切にコミュニケーションをとることができる。
- ③理学療法学専攻の学生は、卒業時に高い教養を身に付け、理学療法の実践に必要な知識を有し、それを健康づくり・介護予防の支援に活用することができる。
- ④理学療法学専攻の学生は、卒業時に個人・家族・地域に対し健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、根拠に基づいた適切で有効な理学療法技術を提供できる。
- ⑤理学療法学専攻の学生は、卒業時に人々の健康のために、対象者自らが主体的に健康づくりおよびリハビリテーションに取り組むことを支援するとともに、健康を志向する地域環境(人・物・制度)の整備・改善に努めることができる。
- ⑥理学療法学専攻の学生は、卒業時に対象者を中心とした安全で質の高い保健・医療・福祉を実践するために、自身の役割を認識し、多職種との相互理解を深めながら行動することができる。
- ⑦理学療法学専攻の学生は、卒業時に論理的思考による探求心を身につけ、自己研鑽に励み、自己および専門職として生涯にわたり成長できる資質を示すことができる。

①～⑦専門科目－選択

人間工学
精神神経科学各論
スポーツ傷害理学療法学
ウイメンズヘルス理学療法学
医療経営管理論学

①～⑦理学療法専門科目

理学療法研究方法論
生体機能計測学
卒業研究Ⅰ
卒業研究Ⅱ

研究
スキル

臨床
スキル

専門
知識

社会実習
特色科目・実習

①～⑦千葉県の健康
づくり

2年次

3年次

専門
知識

①～⑦理学療法専門基礎科目

理学療法概論
運動療法学
理学療法評価学Ⅰ
理学療法評価学演習

理学療法評価学Ⅱ（神経系）
理学療法評価学Ⅲ（統合・解釈）
日常生活活動学
日常生活活動学演習

物理療法学
物理療法学演習
義肢装具学
義肢装具学演習

①～⑦臨床体験実習

①～⑦体験ゼミ

1年次

基礎
知識

一般
教養

①～⑦一般教養－必修

コミュニケーションの理論と実際	
統計学	人間関係論
情報リテラシーⅠ	物理学
情報倫理	英語Ⅴ

①～⑦保健医療基礎科目：
人間のこころと身体

栄養学Ⅰ（基礎）	微生物学Ⅰ（総論）
病理学Ⅰ（総論）	臨床心理学

①～⑦保健医療基礎科目：健康と保健医療システム

リハビリテーション概論	画像診断学
公衆衛生学Ⅰ（基礎）	保健医療福祉論（基礎）
救急救命の理論と実際	リスクマネジメント論

①～⑦リハビリテーション専門基礎科目

人体の構造Ⅰ
人体の構造Ⅱ
人体の構造実習
機能解剖学

人体の機能Ⅰ
人体の機能Ⅱ
運動学Ⅰ
運動学Ⅱ

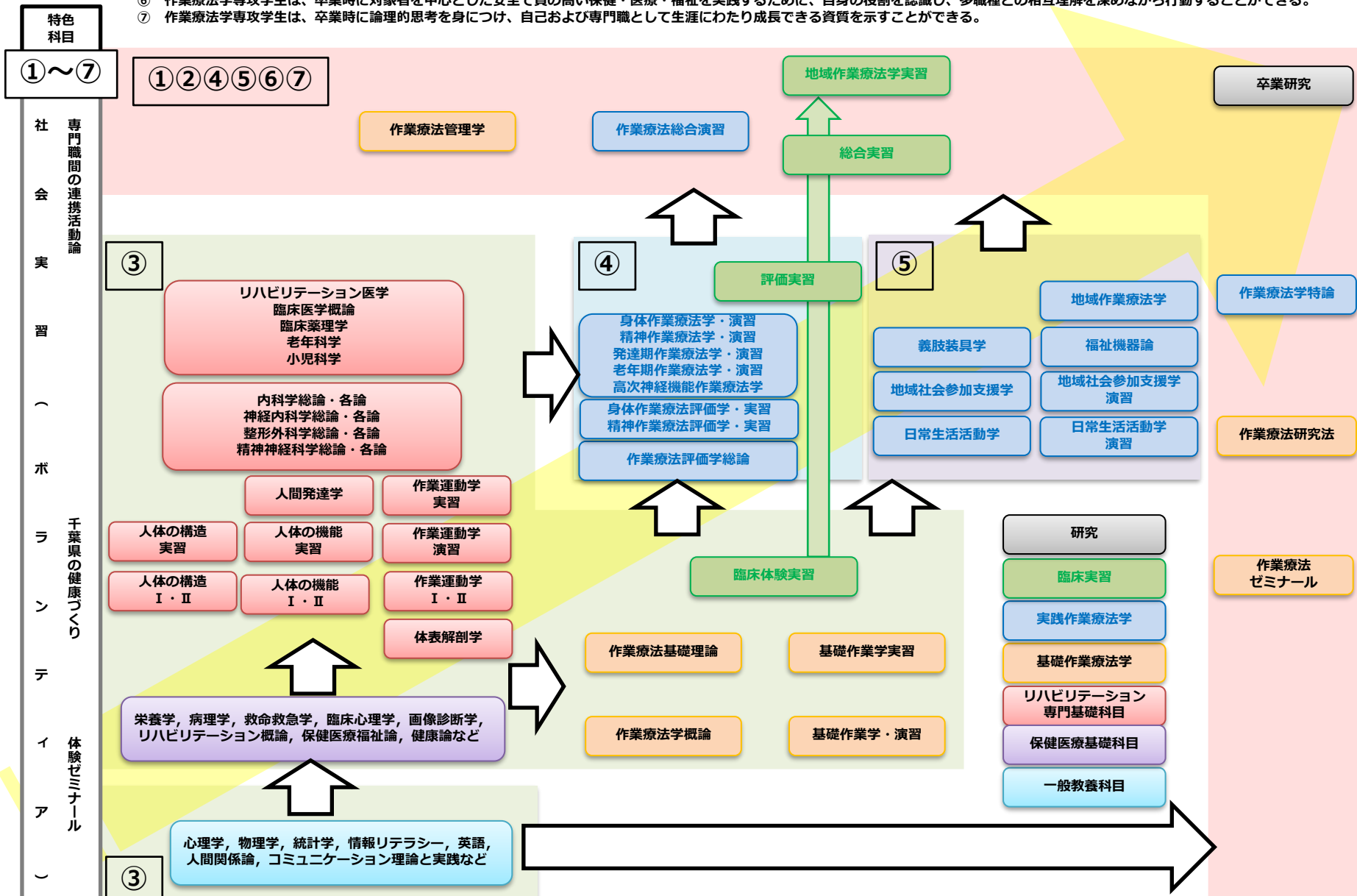
医学総論
人体の機能実習
臨床運動学
人間発達学

整形外科学総論
整形外科学各論
神経内科学総論
神経内科学各論

作業療法学専攻 カリキュラムマップ

ディプロマポリシー

- ① 作業療法学専攻学生は、卒業時に倫理的な原則を遵守し、専門職としての責務を果たすことができる。
- ② 作業療法学専攻学生は、卒業時に対象者とそれを支える人、保健・医療・教育・福祉職に対してお互いの立場を尊重した人間関係を構築し、生き生きとしたコミュニケーションをとることができる。
- ③ 作業療法学専攻学生は、卒業時に高い教養を身に付け、専門領域の実践に必要な知識を有し、健康づくりの支援に活用することができる。
- ④ 作業療法学専攻学生は、卒業時に個人・家族・地域に対し健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、根拠に基づいた適切で有効な健康づくりの支援を提供できる。
- ⑤ 作業療法学専攻学生は、卒業時に人々の健康的またはその人らしい生活を送るための問題解決と健康増進に向けて、健康を志向する地域環境（人・物・制度）の整備・改善に努めることができる。
- ⑥ 作業療法学専攻学生は、卒業時に対象者を中心とした安全で質の高い保健・医療・福祉を実践するために、自身の役割を認識し、多職種との相互理解を深めながら行動することができる。
- ⑦ 作業療法学専攻学生は、卒業時に論理的思考を身に付け、自己および専門職として生涯にわたり成長できる資質を示すことができる。



千葉県立保健医療大学教務委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、千葉県立保健医療大学学則第16条第2項の規定に基づき、教務委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。なお、原則として、(1)から(6)の各号の教員のうち1名は講師以上とする。

- (1) 看護学科教員 4名
- (2) 栄養学科教員 2名
- (3) 歯科衛生学科教員 2名
- (4) リハビリテーション学科理学療法学専攻教員 2名
- (5) リハビリテーション学科作業療法学専攻教員 2名
- (6) 共通教育運営会教員 2名
- (7) その他学長が必要と認める者

(任期)

第3条 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じたときは、これを補充する。ただし、その任期は、前任者の残任期間とする。

(所掌事項)

第4条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 教育課程の編成に関する事項
- (2) 学年暦及び時間割の編成に関する事項
- (3) 授業計画に関する事項
- (4) 非常勤講師に関する事項
- (5) 試験及び単位の認定に関する事項
- (6) 授業評価に関する事項
- (7) 学籍の異動（入学、進級、休学、復学、転学、留学、退学、除籍及び卒業等）に関する事項
- (8) 科目等履修生、特別聴講学生、聴講生、研修生、研究生及び外国人留学生に関する事項
- (9) その他学長が付託した事項に関する事項
- (10) その他教務に関する事項

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、学長が指名する。
- 3 委員長は、会務を総理する。

(副委員長)

第6条 委員会には、副委員長を置く。

2 副委員長は、委員長の指名による。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代理する。

(委員会の招集及び議長)

第7条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(議事)

第8条 委員会は、委員の2分の1以上の出席がなければ開くことができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、委員会が特に必要と認めた事項については、出席者の3分の2以上の同意を必要とする。

(委員以外の者の出席)

第9条 委員長は、必要に応じ、委員以外の者を出席させ、説明を求め、又は意見を述べさせることができる。

(庶務)

第10条 委員会の庶務は、事務局学生支援課において処理する。

(補則)

第11条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

大学等名	千葉県立保健医療大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	千葉県立保健医療大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム	申請年度	令和8年度

取組概要

○プログラムの目的

数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、統計学と情報リテラシーの基礎的素養を身に付けた人材を育成し、それらを取扱い保健医療の場で活用できる能力を身に付けること。

○身に付けられる能力

情報化社会において必要となる基礎的なデータ収集、分析の手法やICTを活用した情報整理・表現の技能を身に付ける。

○修了要件

必修科目の統計学(1単位)と情報リテラシーⅠ(1単位)の計2単位を修得すること。

○実施体制

プログラムを改善・進化/自己点検・評価を行う組織

教務委員会



毎年評価・改善を実施

○開講されている科目の構成

全学科専攻学生が対象
必修2科目で構成

1年次前期
情報リテラシーⅠ

1年次後期
統計学

・1人1台パソコンを使用して統計ソフトや各種ツールを用いた演習形式の授業を実施している。